

## Ⅲ. 分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 岡本高宏・東京女子医科大学第二外科・教授）

研究要旨

NCDシステムを利用した甲状腺がん登録と甲状腺腫瘍診療ガイドラインを検証・改訂作業を進めた。甲状腺がん登録は悉皆性の高いデータ入力と全国的にみたカバー率の向上が今後の課題である。甲状腺腫瘍診療ガイドラインはわが国独自の管理方針を提唱し、それが海外に広まりつつある。改訂版においても西洋とは異なる視点で作成を進めている。

A. 研究目的

- (1) NCDシステムを利用した甲状腺がん登録作業を推進する。
- (2) 甲状腺腫瘍診療ガイドラインの検証作業、改訂作業を推進する。

B. 研究方法

- (1) 甲状腺がん登録の意義とその重要性について関連学会で周知を図る。
- (2) 甲状腺腫瘍診療ガイドラインに関連するエビデンスの収集と吟味を行う。

C. 研究結果

- (1) - 1 : 第28回日本内分泌外科学会総会において特別企画「NCD報告」を行い、①専門医制度との連携、②甲状腺がん登録、③NCDデータの利活用について解説した。
- (1) - 2 : 第49回日本甲状腺外科学会学術集会においてシンポジウム「甲状腺外科診療の標準化」を開催し、①がん登録推進法と全国がん登録、②NCDにおける臓器別がん登録の現状と展望、③甲状腺腫瘍診療ガイドラインの役割、④甲状腺癌取扱い規約の役割について公開討論を行った。
- (2) - 1 : 甲状腺がんに関するNCDデータを利用して診療ガイドラインの評価を行うことを目的にNCD事務局と交渉を開始した。併せて学会内でのデータ利用に関するルール作りを行った。
- (2) - 2 : 甲状腺腫瘍診療ガイドライン改訂版の原案作成を終了した。

D. 考察

甲状腺がん登録は2016年からNCDのCRFに実装されており、悉皆性の高いデータ入力と全国的にみたカバー率の向上が今後の課題である。

甲状腺腫瘍診療ガイドラインはわが国独自の管理方針を提唱し、それが海外に広まりつつある。改訂版においても西洋とは異なる視点で作成を進めている。

E. 結論

わが国の甲状腺がん診療の質向上に向けてNCDシステムを離床したがん登録の普及と診療ガイドラインのアップデートを図ってゆく必要がある。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
岡本高宏. NCD報告. 第28回日本内分泌外科学会総会抄録集, S49, 2016  
柴田亜希子. がん登録推進法と全国がん登録. 第49回日本甲状腺外科学会学術集会抄録集, S204, 2016  
高橋 新. NCDにおける臓器別がん登録の現状と展望. 第49回日本甲状腺外科学会学術集会抄録集, S204, 2016  
小野田尚佳、伊藤康弘、岡本高宏. 甲状腺腫瘍診療ガイドラインの役割. 第49回日本甲状腺外科学会学術集会抄録集, S205, 2016  
伊藤康弘、宮内 昭. 甲状腺癌取扱い規約の役割. 第49回日本甲状腺外科学会学術集会抄録集, S205, 2016

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし